

- 1 教育事業名 「いきいき自然体験キャンプ」～自然にふれ、人とかわり、新しい自分に気づく旅～
- 2 ね ら い 心因性の不登校児童生徒に対して、渡嘉敷島の大自然の中で日常と離れ、各教室の児童生徒と生活・行動し、安心できる環境の中で自然体験・宿泊体験・交流体験などを行うことで、心身を解放させる。そして自分の新しい一面に気づくことで、日常生活において前進するきっかけとなることを期待する。
- 3 期 日 平成30年9月11日(火)～9月14日(金) 3泊4日
*台風22号接近のため3泊4日を2泊3日(9月11日～13日)に変更して実施
- 4 場 所 国立沖縄青少年交流の家
- 5 募集定員 県内適応指導教室等に通級する児童生徒(小・中・高) 50名程度
児童生徒の関係者(適応指導教室職員・保護者等) 20名程度
- 6 参加人数 49名
- 7 参加者内訳 小学生3名・中学生27名・適応指導教室引率職員19名(男性23名、女性26名)
- 8 講 師
 - ・照屋 寛信氏(手作り遊び工房ふぁーかんだー) クラフト・野外活動指導
 - ・森 有紀子氏(スノーケリング公認指導員)スノーケリング指導
 - ・比嘉 康裕氏(スノーケリング公認指導員)スノーケリング指導
 - ・池松 来 氏(スノーケリング公認指導員)スノーケリング指導

9 実施プログラム

| | 7:00 | 8:00 | 9:00 | 10:00 | 11:00 | 12:00 | 13:00 | 14:00 | 15:00 | 16:00 | 17:00 | 18:00 | 19:00 | 20:00 | 21:00 | 22:00 | |
|--------|-----------|--------------|-------------------|----------|--------|--------------------|---------------|----------|--------------|------------|--------------|-------|--------|-------|-------|---------|--------|
| 11日(火) | | | とまりん集合・受付 | 泊港出港フェリー | | 昼食(弁当)休憩・スタッフ打ち合わせ | オープニング・ふれあいレク | テント設営 | ゆとりの時間 | 火おこし | 夕食(野外炊事)カレー | | ゆとりの時間 | ふりかえり | シャワー | 就寝(テント) | |
| 12日(水) | 起床・ゆとりの時間 | 朝食(軽食) | 海洋研修・昼食(弁当) | | | | | | | ゆとりの時間 | 夕食(野外炊事)ロコモコ | | 灯りの時間 | ふりかえり | シャワー | 就寝(テント) | |
| 13日(木) | 起床・ゆとりの時間 | 朝食(軽食)・テント撤収 | 大型カヌーでハナリ島へ移動(弁当) | | | | | 阿波連漁港へ移動 | 海洋研修場へ移動・片付け | ゆとりの時間 | 本館へ移動 | 入所OR | 夕食(食堂) | 星座観察 | ふりかえり | 入浴 | 就寝(本館) |
| 14日(金) | 起床・ゆとりの時間 | 朝食(食堂)清掃 | 清掃・荷物移動 | 平和学習 | 昼食(食堂) | ふりかえり | エンディング・アンケート | 移動 | 乗船 | 渡嘉敷港出港フェリー | 各教室で解散 | | | | | | |

10 事業の様子



自然体験キャンプスタート



ふれあいレクリエーション



テント設営



夕食のカレー作り



灯りの時間



ふりかえり



赤縄でブレスレット作り



海洋研修（大型カヌー）



ヒナクシチャレンジ

11 エピソード

(1) アンケート・参加者の感想

- ・はじめてやることも多かったけど、いろんな人としゃべれて楽しかった。
- ・テント設営は難しかったけど、班のみんなと協力することができてよかった。
- ・テント設営では、自分から進んで動き、色々学ぶことができた。
- ・海がすごくきれいで泳ぐのもすごく楽しかった。
- ・ヒナクシチャレンジでは、色々な人と話しをしながら、ゆっくりマイペースで歩いてよかった。
- ・普段できないことに挑戦することができて、うれしかった。
- ・ゆったりできる時間があってよかった。
- ・スノーケリングでは、ウミガメやクマノミを見ることができてよかった。
- ・周りの人と仲良くなれてよかった。
- ・お皿を洗ったりするのがすごく大変だったけど、楽しかった。
- ・野外炊事は火おこしから始めて大変だったけど、失敗もあり成功もありで達成感があった。
- ・周りの人がやさしく声をかけてくれてうれしかった。
- ・海洋研修では、笑い声がいっぱい聞こえてきて、プログラム自体もよかった。
- ・ヒナクシチャレンジでは、歩きながらきれいな風景を見ることができた。

(2) 沖縄県適応指導教室連絡協議会における担任の先生からの報告

- ・キャンプに参加した後から表情が豊かになって笑顔が増えた。
- ・自然体験キャンプのおかげで、少しずつ学校への登校が増えた。
- ・1日1食の食習慣だったが、朝食を食べるようになった。早めに寝るように努力し、朝、起きることができるようになった。
- ・集団活動に参加できた事で、やればできるという意識が芽生え始めた。
- ・キャンプの後から教室内のメンバーの仲がよくなった。
- ・普段なら体調不良だとすぐに欠席していたが、頑張ろうとする姿が見られるようになった。
- ・自分の足りないところを考え、体力をつけるために母親と一緒に犬の散歩に出かけるようになった。

12 担当者所見

(1) 成果

- ・はじめは他の生徒との関わりに消極的だった生徒が、事業が進むにつれて本人なりの距離感で関わっていけるようになるなど、自分から周りの人に話しかける児童生徒が増えてきた。
- ・3kmの山道を歩くヒナクシチャレンジでは、初めは歩く距離が長いと不安がっていたが、互いに励まし合ってプログラムをやり遂げたことで、達成感に満ちた表情が多く見られた。
- ・事業後に担任から「少しずつ学校への登校が増えた」「生活リズムの改善が見られた」「表情が豊かになって笑顔が増えた」などの報告があり、キャンプが日常生活の課題解決のきっかけになった。

(2) 課題

- ・台風襲来の多い時期に実施する事業のため、日程やプログラムなどの急な変更にもすぐに対応できるように、荒天時の詳細プログラムをしっかりと計画していく必要がある。
- ・児童生徒が安心して活動できるよう、ゆとりを持たせたプログラムの設定をしていく必要がある。